



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第79回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 グラウンド整備時終了後の整備員に対する礼

5回終了後にグラウンド整備が実施されることが定着し、整備員への感謝の気持ちを表すため、両チームの選手がベンチ前に整列して「礼」をしている光景を見ます。試合開始前と試合終了時の「礼」により、試合に関わる全ての関係者への感謝が含まれていると聞いたことがありますが、実際はどのようなのでしょうか?

第75回で紹介しましたが、**2017年度の重点指導事項は「礼に始まり礼に終わる」という標題**です。文字通り、試合開始及び終了時に両チームが本塁を挟んで整列し、礼(挨拶)を交わすことで、**試合中の都度の「礼」までは不要**としています。例えば、「打者が打者席に入る際に脱帽して球審に挨拶する」「投手が球審からボールを受ける際に脱帽する」「伝令がファウルラインを越える都度脱帽して礼をする」といった行為(挨拶)が該当し、整備員も同様です。感謝の気持ちは、グラウンドでのフェアプレー、ひた向きのプレイで表現してください。



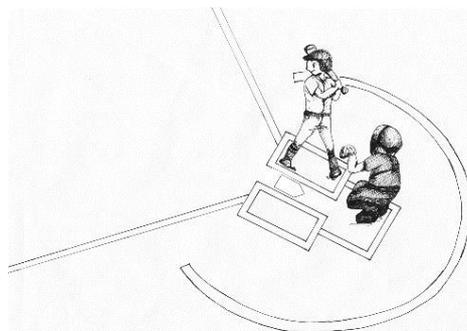
ルール編 本塁周辺のサークルの大きさや意義は

公式の野球場及び校庭グラウンドでも本塁周辺にサークルが引かれています。最近、校庭で練習試合を観戦したところ、このサークルが少し大きく感じたのですが、実際の大きさとその意味を教えてください。

高校野球において、2007年より本塁周辺にサークルを引くことになりました。このサークルは、「**ダートサークル**」と呼び、その**大きさは本塁の基点を中心とした直径 26 フィート(約 7.925 メートル)の円**です。これは、野球規則 2.01「競技場の設定」の野球競技場区画線(1)に図示される 26 フィートの円に基づくものです。

また、野球規則 5.05(a)(2)の原注で「第 3 ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁に向かおうとしなかった場合、その打者は「ホームプレートを囲む土の部分」を出たらただちにアウトが宣告される」と規定されています。この「ホームプレートを囲む土の部分」が「**ダートサークル**」ですから、所謂「**振り逃げ**」の権利があるのかないのかを判断する重要な区画なのです。グラウンド整備を担当する選手には、この意味を理解してきちんと測定の上、引くようお願いします。

なお、第 47 回の「マナー編」でも紹介していますので、合せて確認してください。



イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
滝 真実さん (3年)